

平成29年度 第1回

在宅医療・介護連携推進に関する会議

参考資料

- 「在宅医療・介護連携の推進」について
- 在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業）について
- 北九州市医師会 医療・介護従事者研修会参加者アンケート集計結果

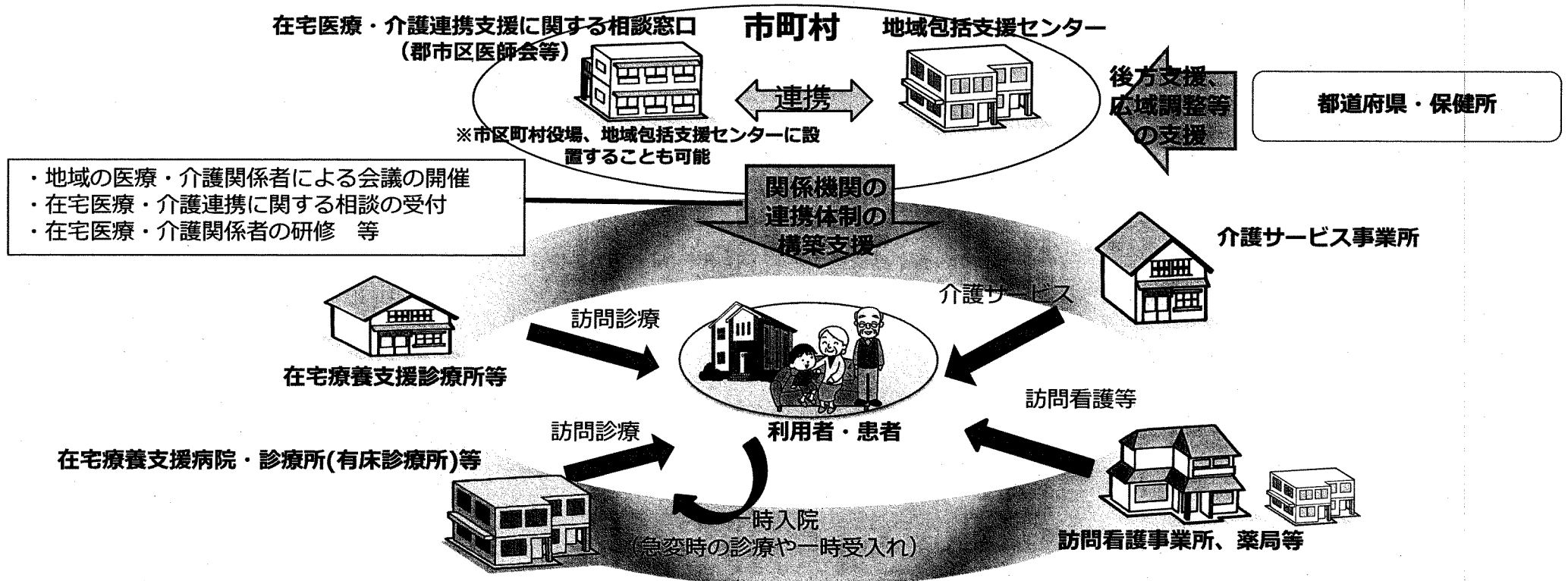
在宅医療・介護連携の推進

- 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関（※）が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することが重要。

（※）在宅療養を支える関係機関の例

- ・ 診療所・在宅療養支援診療所・歯科診療所等（定期的な訪問診療等の実施）
- ・ 病院・在宅療養支援病院・診療所（有床診療所）等（急変時の診療・一時的な入院の受入れの実施）
- ・ 訪問看護事業所、薬局（医療機関と連携し、服薬管理や点滴・褥瘡処置等の医療処置、看取りケアの実施等）
- ・ 介護サービス事業所（入浴、排せつ、食事等の介護の実施）

- このため、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、都道府県・保健所の支援の下、市区町村が中心となって、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を推進する。



在宅医療・介護連携推進事業(介護保険の地域支援事業)について

- 各市区町村は、原則として(ア)～(ク)の全ての事業項目を実施。
- 実施可能な市町村は平成27年4月から取組みを開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援
- 国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

<事業内容>

項目	概要	本市の取組状況
ア 地域の医療・介護の資源の把握	地域の医療機関、介護事業所等の所在や機能等を把握してリスト又はマップを作成し、地域の医療・介護関係者間の連携等に活用する。	○ 実施 ・在宅医療資源調査の実施 (H26～) ・ジモッティを活用した情報の公表 (H27～) ・詳細な情報を閲覧可能な新たな検索ツールの公開 (H29.7 予定)
イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状の把握と課題の抽出、解決策の検討を行う	○ 実施 ・在宅医療・介護連携推進に関する会議で検討 (H28～)
ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、切れ目なく在宅医療と介護が一体的に提供される体制の構築に向けて必要となる具体的取組を企画・立案する。	△ 検討中 ・在宅医療・介護連携に関するワーキング会議で検討中 (H28～) ・在宅医療・介護連携推進に関する会議で検討予定 (H29)
エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	情報共有の手順等を定めた情報共有ツールを整備する等、地域の医療・介護関係者の情報共有を支援する。	
オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援	在宅医療・介護連携を支援する相談窓口を設置して、地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの、在宅医療・介護連携に関する事項の相談に対応する。	○ 実施 ・在宅医療・介護連携支援センター運営事業 〔 H27～ 市内2箇所 H28～ 市内5箇所(本実施) 〕
カ 医療・介護関係者の研修	地域の医療・介護関係者の連携を実現するために、多職種でのグループワーク等の研修、医療関係者に介護に関する研修、介護関係者に医療に関する研修を行う。	○ 実施 ・在宅医療・介護連携支援センター運営事業の中で「多職種連携研修会」「在宅医療・介護従事者研修」を実施 (H27～)
キ 地域住民への普及啓発	在宅医療・介護連携に関する講演会の開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の理解を促進する。	○ 実施 ・在宅医療・介護連携支援センター運営事業の中で住民向けの「普及啓発講演会」を実施 (H27～) ・在宅医療・介護推進シンポジウムの開催 (H28～) ・在宅医療における薬剤師の役割等に関する啓発パンフレットの作成 (H28)
ク 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携	複数の関係市町村が連携して、広域連携が必要な事項について協議する。	△ 検討中 ・北九州医療圏内の自治体等と協議を開始 (H28～)

～北九州市医師会 医療・介護従事者研修会 参加者アンケート集計結果～

○日 時:平成29年1月24日(火)19時～20時30分

○場 所:市立商工貿易会館 2F 多目的ホール

○出席者:180名(職種内訳:医師・歯科医師・薬剤師…66名、看護師…26名、ケアマネジャー…36名、PT…5名、社会福祉士…13名、介護福祉士…7名、保健師…1名、ヘルパー…2名、その他…24名)

○講演内容:1.『在宅医療・介護連携支援センターについて(概要説明)』

市保健福祉局地域医療課

2.『在宅医療・介護連携支援センターの取り組み～つなぐ・つかえる・つたえる切れ目のない医療と介護をさまざまな角度からサポート～』

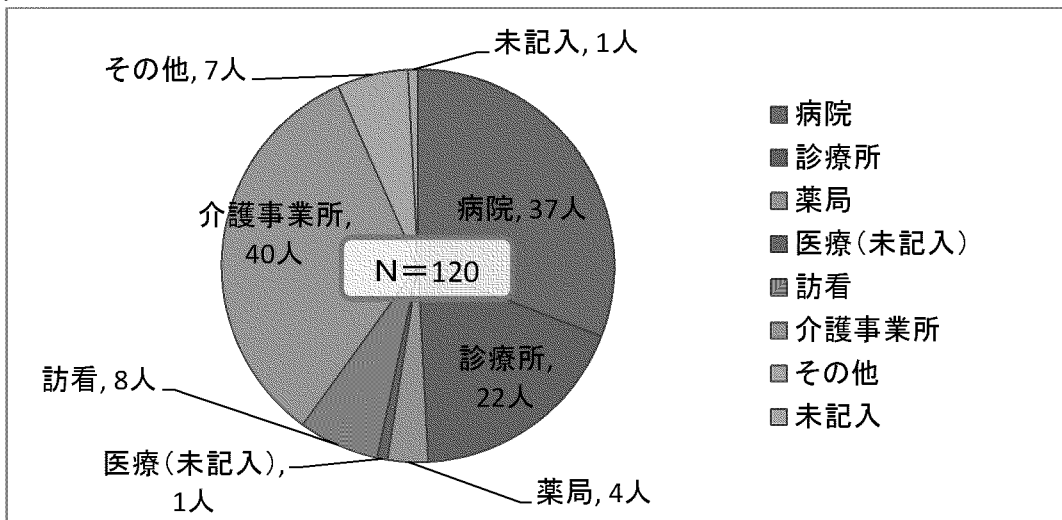
在宅医療・介護連携支援センター 職員

- ① 在宅医療に関する専門相談窓口について【 門司 】
- ② 医療・介護従事者研修について【 小倉 】
- ③ 多職種連携研修会について【 八幡 】
- ④ 普及啓発講演会について【 戸畑・若松 】

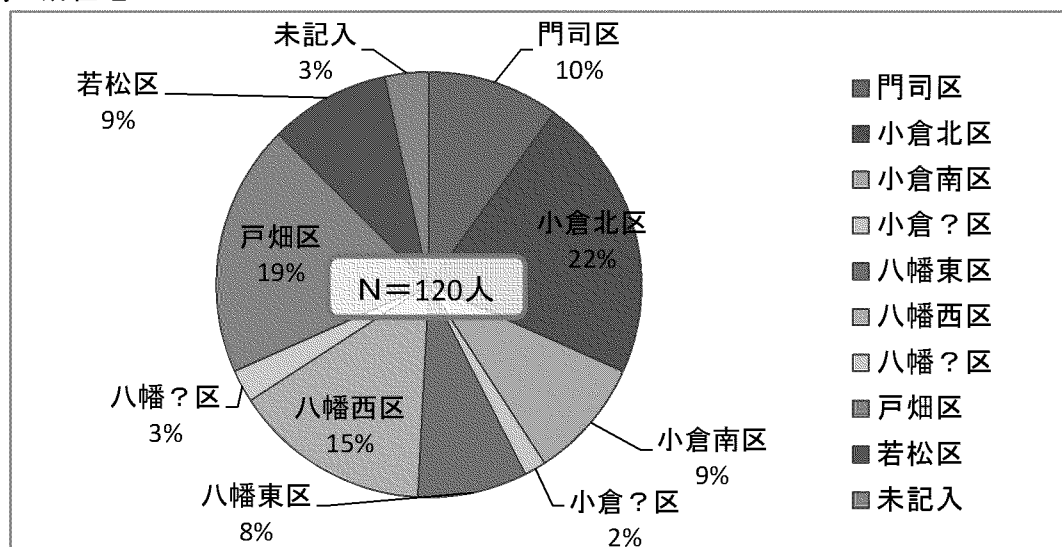
○アンケート回答率(※):73.2%(120名回答)

※本研修会の主催者および演者を除く数を母数とする。

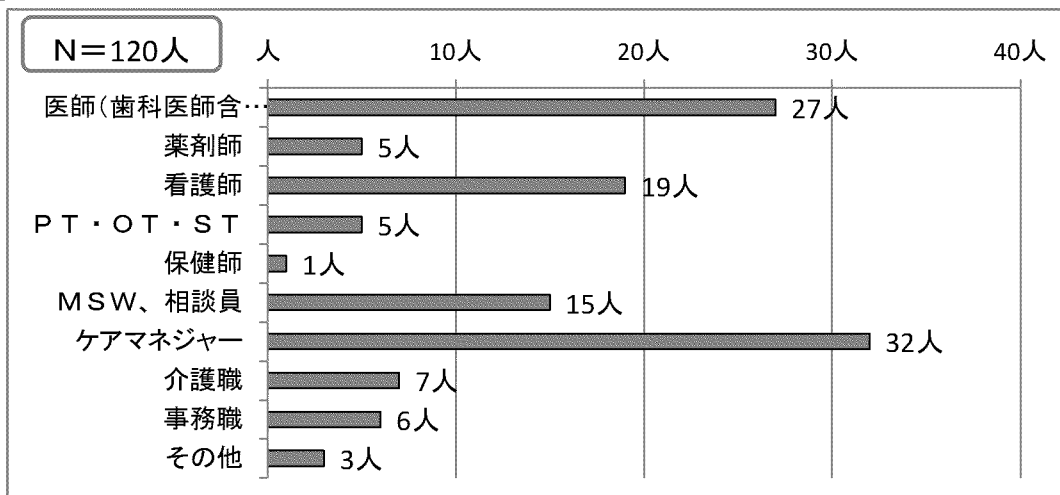
問1. 所属



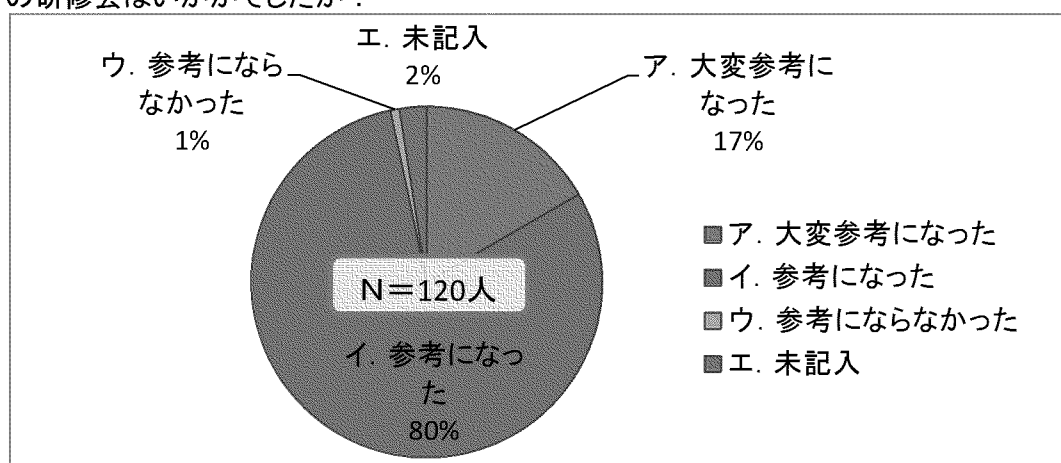
問2. 所属の所在地



問3. 職種



問4. 本日の研修会はいかがでしたか？

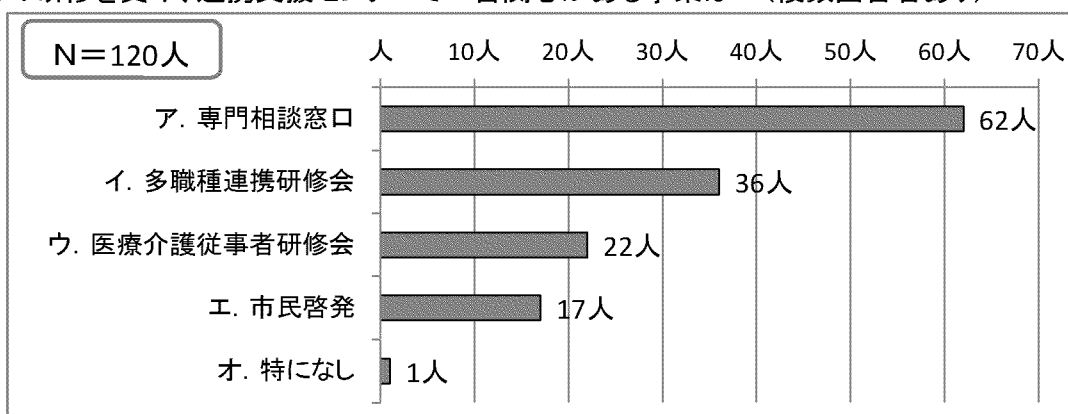


《参考》回答者内訳：

人数が多い①医師・歯科医師・薬剤師(32人)、②看護師(19人)、③MSW・相談員(15人)、④ケアマネ(32人)の人数を抽出。

- ・大変参考になった (① 8人、② 2人、③ 2人、④ 5人)
- ・参考になった (① 23人、② 17人、③ 13人、④ 25人)
- ・参考にならなかった (① 0人、② 0人、③ 0人、④ 0人)

問5. 本日の研修を受け、連携支援センターで一番関心がある事業は？(複数回答者あり)

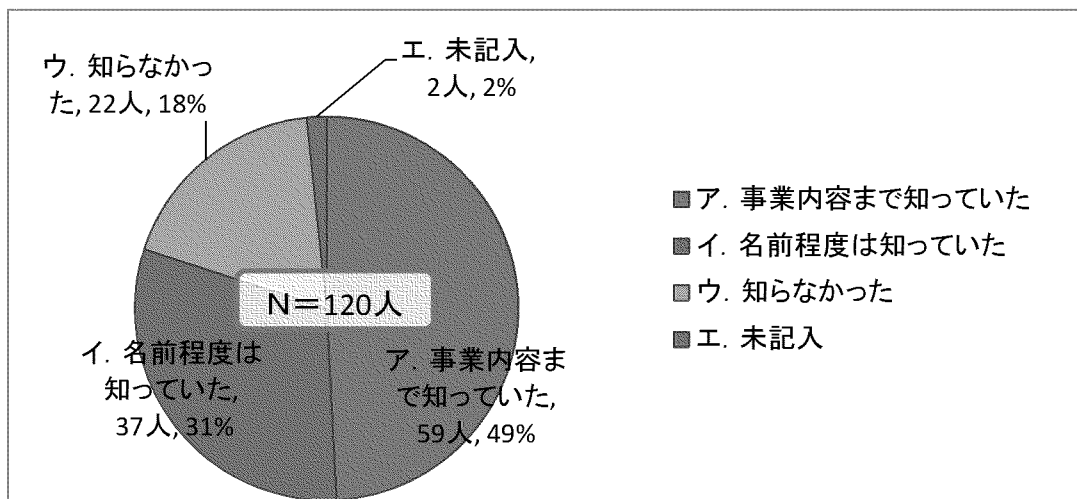


《参考》回答者内訳

人数が多い①医師・歯科医師・薬剤師(32人)、②看護師(19人)、③MSW・相談員(15人)、④ケアマネ(32人)の人数を抽出。

- ア. 専門相談窓口 (① 15人、② 10人、③ 10人、④ 20人)
- イ. 多職種研修会 (① 8人、② 5人、③ 2人、④ 12人)
- ウ. 従事者研修会 (① 5人、② 5人、③ 2人、④ 6人)
- エ. 市民啓発 (① 6人、② 5人、③ 1人、④ 3人)

問6. 本日の研修を受講する前に連携支援センターを知っていましたか？



《参考》回答者内訳

人数が多い①医師・歯科医師・薬剤師(32人)、②看護師(19人)、③MSW・相談員(15人)、④ケアマネ(32人)の人数を抽出。

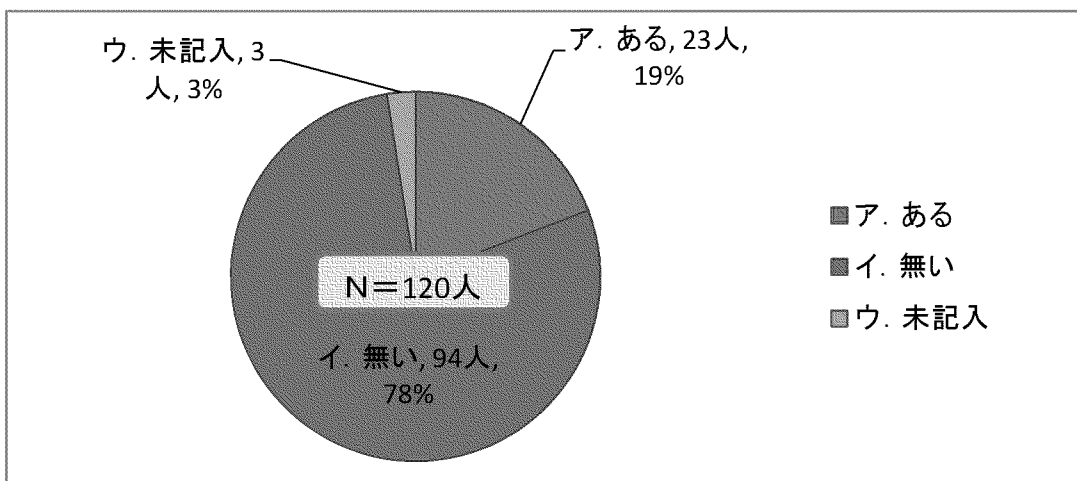
ア…(①16人、②7人、③8人、④21人)

イ…(①9人、②7人、③7人、④9人)

ウ…(①6人、②5人、③0人、④1人)

エ…(①0人、②0人、③0人、④0人)

問7-1. 連携支援センターを利用したことがありますか？

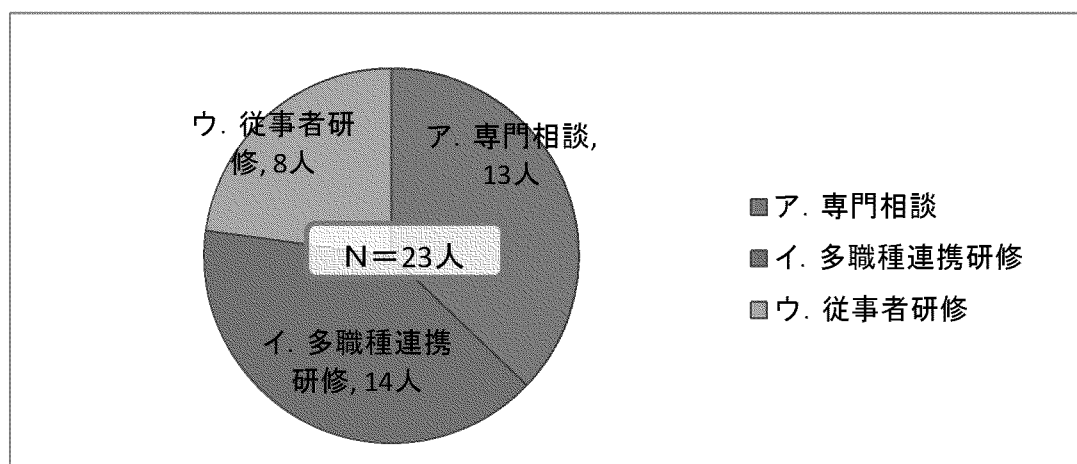


《参考》回答者内訳

人数が多い①医師・歯科医師・薬剤師(32人)、②看護師(19人)、③MSW・相談員(15人)、④ケアマネ(32人)の人数を抽出。

ア. ある (①6人、②3人、③5人、④5人)

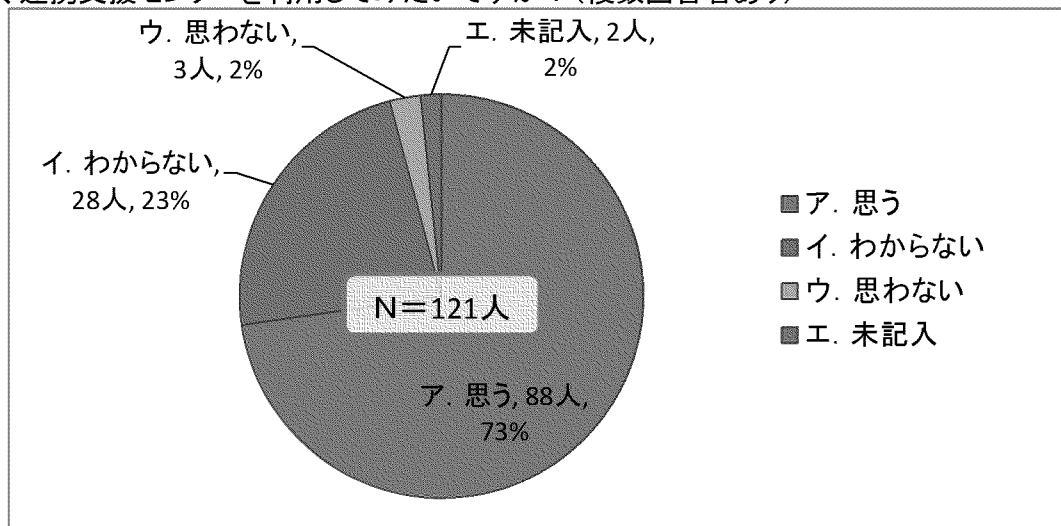
問7-2 連携支援センターを利用された理由は？(複数回答者有り)



問7-3. 連携支援センターを利用した感想は？

- ・私たちが持っている以上の情報が得られるのかと思いましたが、そうでもなかったです。
- ・受け皿としてきちんとした説明を行うことが大切と実感した。区をまたいで受け皿となれるように情報共有できるように行っていく。
- ・開設当初に利用させていただきましたが、丁寧に対応していただきました。
- ・訪問診療を探していたが、ネットで探しても探すことが出来なかった。センターに相談したことで訪問診療Drを探せたと、Drも引き受けてくれたのではと。とても助かりました。
- ・多様な内容の研修を開催くださるので楽しみにしています。
- ・Goodでした。安心して本来の業務に戻れた。
- ・往診医を探していたので、情報提供していただき、助かりました。

問8. 今後、連携支援センターを利用してみたいですか？(複数回答者あり)



《参考》回答者内訳

人数が多い①医師・歯科医師・薬剤師(32人)、②看護師(19人)、③MSW・相談員(15人)、④ケアマネ(32人)の人数を抽出。

- ア. 思う (①25人、②12人、③12人、④27人)
 イ. わからない (①7人、②8人、③3人、④3人)

問9. その他、連携支援センターに関する要望や医療介護連携にかかる課題など。

- ・医師会に加入していない診療所にも勉強会の案内をお知らせしていただけるシステムがあれば良いかなと思います。
- ・介護保険の意見書ですが、毎回ケアマネより現在の状況報告書を提出しているにも関わらず毎回、前回のコピーを貼りつけて意見書にしています。医師に対して指導等をお願いしたいものです。
- ・開始時間がいつも遅いので早めにしてほしい。せめて18:30～
- ・介護申請を行う際主治医の意見書が必要となります。認定が出た後に開示請求を行うと主治医の同意が無い為、受け取れない?! どうしてでしょう。
- ・実際に動き始めて問題点が色々出るでしょう。
- ・在宅医療連携センターに対して身近に感じることができました積極的に相談していきたいと思っています。
- ・研修内容等類似したものがたくさんある中で支援センターが特化した部分を示してほしい。(掘り下げてほしい)。
- ・本当に医療が必要な方に医療を届けたいと思っている。
- ・地域住民へ介護保険制度について周知出来る様な取り組みを検討していただきたいです。保険料は取られるけど内容をよく知らない。との発言があります。
- ・いつも相談にのっていただいて本当に助かっています。今後もよろしくお願いします。
- ・制度についての学習会など退院支援についての知識を身に着ける場を設けてほしい。
- ・今後の存在価値のグレードアップを期待します。
- ・多くの方が連携の必要性を理解できるように活動を続けてください。
- ・講演、研修へ来ない市民への対応は？

問9. その他、連携支援センターに関する要望や医療介護連携にかかる課題など。

- ・ 各区で行われる普及啓発イベントなどを告知できるメーリングリストがあると良い。
- ・ 連携支援センターの1年間の御活動を聞くことで需要があるか分かりました。今回、医師会からの感じていること等も聞けて良かったと思います。参加された先生方はどうだったのか？訪問診療、薬局等料金負担と感じている人も多い。
- ・ 本来、ケアマネジャーさんが支援しなければいけない部分をフォローしているなあと感じた。親しみやすく相談しやすい。市民にとって安心・安全がもたられると感じました。
- ・ 地域住民への啓発とテーマがあるが、行政と協力して市民センターでの講演会を開催させる→講師は在宅センターが決める。市民センターの温度差がひどいです。
- ・ 事例も大変関心を持ちました。
- ・ 各地区での取り組みを知ることができました。
- ・ 今度、退院調整などを行っていく中で在宅医療資源情報マップを活用していきたいと思いました。
- ・ 日中の開催を検討してもらいたい。主婦は参加が難しい。
- ・ 今日の中で戸畑からの報告が良かった。
- ・ 相談内容に関するQ&Aは一般公開されていますか？啓発や研修はアンケートのみの評価ではなく、常識面での評価は何か考えていますか？
- ・ 連携支援センターは、入院患者様や要介護者で在宅医療が必要な方を開業医にご紹介していただける、大変ありがたいシステムと考えており、今後の益々の発展を期待するところです。しかし、実際の紹介患者数はあまり多くないと聞き及んでいます。連携支援センターの職員とともに市医師会の方も今後連携支援センターの利用が増えるように工夫、努力をしていただき、全国から視察が来るような連携支援の先進地域になれるよう頑張ってくださいとよいと思います。